

氏名(本籍)	世の 妹	お 尾	えい 栄	いち 一	(千葉県)
学位の種類	医学博士				
学位記番号	博甲第576号				
学位授与年月日	昭和63年3月25日				
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当				
審査研究科	医学研究科				
学位論文題目	医療人類学的見地から見た一離島における宗教と精神衛生 —青ヶ島巫女の精神医学的民俗誌— (dissertation形式)				
主査	筑波大学教授	医学博士	三澤	章吾	
副査	筑波大学教授	文学博士	綾部	恒雄	
副査	筑波大学教授	医学博士	牧	豊	
副査	筑波大学教授	医学博士	山口	誠哉	
副査	筑波大学助教授	医学博士	稲村	博	

論文の要旨

(1)研究目的

従来の日本における文化精神医学研究は、主として精神病院受診者について、その社会文化的背景を調査するか、集団検診方式によって医師の立場からある地域における一斉調査を行う方法に立脚してきた。従来の研究が、地域における一般人の生活意識と事例との関係や、被検者の地域内での生活状態、その文化的役割について、文化全体との関係において考察しえなかったという点を考慮し、本研究は、現時点でもシャーマニズムなど民間信仰の生きている地域共同体に焦点をあて、そこに見られる宗教病態や、広く精神衛生学的側面について調査し、対象を<内側>から理解しようとするものである。具体的には①一離島における巫女の全数調査を行い、その成巫過程を分析する②広く、その地域の精神障害全般についても調査し、シャーマニズムと島民の精神衛生との関わりについて実態を明らかにする。

(2)対象と方法

調査地域は伊豆七島最南端に位置する青ヶ島であり、対象は同島における巫女の事例11名である。なお、巫女の事例に限らず、全島民(人口216名)について、精神障害としてとらえている事例の全数調査も行った。昭和61年4-5月、同62年4月の2回にわたり、島民と共に生活し、参与観察、内部観察の方法を用い、定例の祭典場面にとどまらず、牛の飼育から古老の買物代行に至るまで日

常的生活の中で徹底した聞きとり調査を行い、彼らの疾病観・狂気観を明らかにした。

(3)結果

A：青ヶ島における巫女の成巫過程の分析を通じて以下の結論を得た。

①青ヶ島においては、Eladeらの言う意味での召命型・修業型の2分類をそのまま適用するのは困難であり、修業の過程は原則として欠落する。

②昭和40年頃を境に（非定型精神病を中心とする）巫病を成巫の契機にする事例が少なくなっており、逆に親族や自らにたびかさなり起る事故、あるいは身体疾患に対する除災を理由に成巫する例が増えている。

③②の現象は島の急速な近代化が進む時期と一致していることから、逆に昭和40年以前に頻発していた巫病の、文化結合症候群としての側面が示唆された。

B：Aで述べた巫女の成巫過程において生じている精神障害に限らず、同島におけるシャーマニズムの治療的関与は巾広いものであり精神障害全般に対する巫女の役割は以下のように分類された。

1) 患者自身が成巫を望んでおり、巫女たちもそれを支持している場合でも、家族が反対した場合には成巫は見送られる。

2) アルコール依存症及び老年痴呆の症例に対しては、巫女が治療的に関与することはない。これらの事例ではむしろ地域共同体によるケアが行われており、一人暮しの痴呆老人に対しては、親類縁者が弁当を運ぶなどの形での援助が行われている。

3) 1)～2)の例外を除くと、巫女たちが治療的に関与している精神障害の範囲は予想以上に広い。初発の症状のみをとらえて「気が狂っている」というラベリングを行うことはなく、数回の治療儀礼が行われる。

(4)考察

以上得られた結果より、青ヶ島においては精神障害を原則として「ミコケ」であると認知して、治療儀礼に導入することが多い。「ミコケ」とは、入巫の契機となるべき巫病に罹患している状態を認知して用いる言葉である。巫女たちは、葛藤や苦悩を機縁にして巫病を発病しながらも、その後の巫女としての活動の中で心身の症状なく適応しているのであり「疾病を経過した者」としての側面と、新たな成巫者に対して「神ソーデ」の治療儀礼を行う治療者としての側面を併せて持っている。巫女は島のプライマリー・ケアの担い手であると言ってよく、巫病の経過を重視して「ミコケ」と「神乱心、神気違い」を明確に区別して対応しているのである。

審 査 の 要 旨

現時点でもシャーマニズムなどの土俗的な信仰に生きている離島に棲みこみ、巫女全員ばかりでなく、島民全員に対しても徹底した聞き込み調査を実施している。従来この種の精神衛生的研究が、単に精神病院受診者についてのみ調査を行うに止まっているのに対し、調査方法が確実であ

り、より良い結果が生み出されている。

特に巫女11名全員の成巫過程を綿密に調査した結果、修業適程は原則として欠落するという従来の分類では適合しない新しい知見を得ており、また巫女が一般島民の精神障害の治療にも広く関与し、プライマリー・ケアの担い手であることも明らかにした。さらに昭和40年頃を境とする島の急速な近代化に伴う成巫過程の変化を指摘し、成巫過程と文化との関わり合いを具体的に明らかにした意義は大きい。

よって、著者は医学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。